

＜基本情報＞

所在地：肝付町
年齢：36歳（H31.1就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：いんげん（ジャンボインゲン）
7a



ジャンボインゲン

＜就農のきっかけ＞

小学生のころ、祖父や両親の農作業の姿を見て、将来は自分が畑や果樹園を引き継ぐことになるのかなと、漠然と考えていた。高校卒業後は県外に就職したが、Uターンして農業法人に就職してから、バイオといちご栽培に興味を湧き、自分で農業をやってみたいと思うようになり、平成31年1月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・平成29年に町が経営する農業研修センターで1年8カ月間研修生として農業経営を学び就農した。
- ・両親が経営する果樹と周年的に農作業ができるものは、地元で栽培されている「ジャンボインゲン」が最適と考え、栽培することにした。
- ・近隣の農家から農地を借り受け、ハウスは格安で譲ってもらった。また、トラクターは新規就農者助成金を積み立てて購入した。

＜現在＞

- ・生産したジャンボインゲンは大きさ毎に選別し、JAを通じて関東及び関西方面に出荷している。



ジャンボインゲンのハウス

② これまで苦労した点

- ・就農当初から所得は横ばいで推移しているが、ジャンボインゲンの大きさが不揃いになるなど、栽培は思い通りにいかず苦悩の連続であった。最盛期には1日10時間を超える労働時間となり、2～3日間ほとんど寝ずに作業を行うことも多々あった。
- ・ジャンボインゲンは2番果まで収穫して出荷するが、令和3年度は天候不順の影響で、2番果が収穫できず、所得は例年の2/3程度であった。

③ 就農して良かった点

- ・農業は子供と一緒に作業ができるなど触れ合う時間が多くあり、子供の成長を直に感じることができる。

④ 今後の目標

- ・ジャンボインゲンの収量安定に向け日々勉強中である。収益性を上げるため少しでも大きなサイズが収穫できる品種に転換していきたい。
- ・両親は現在ポンカンなどの栽培を行っているが、今後高齢になっていくことから果樹園を徐々に経営移譲し規模拡大を図っていきたい。
- ・就農前に働いていた農業法人では、いちご種苗の生産を行っていたことから、将来は自家製苗を用いたいちご栽培を行いたい。その際は、農業体験型農園にして多くの方々に「農業の楽しみ」を伝えていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・近隣の農家の方々から、いろいろな面で協力してもらいながら営農を行っている状況なので、地域のコミュニケーションを大切に考えて就農してほしい。

＜基本情報＞

所在地：中種子町

年齢：43歳（R元.9就農）

＜経営概要＞

品目：露地野菜

面積：スナップエンドウ 10a、らっかせい 3a、
ブロッコリー 25a、ニガウリ 50本、
オクラ 2a

らっかせい

＜就農のきっかけ＞

鹿児島市のホテルに勤務していたが、妻の実家から農業をやってみないかとの誘いがあり、迷ったもののやることを決断し、妻の出身地である中種子町で、令和元年9月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・西之表農業試験場で9ヶ月間の研修を受け、その後も臨時職員として働きながら、妻の実家から賃借した35aの農地で、スナップエンドウ、ばれいしょ、ブロッコリーの栽培を開始した。
- ・農地は妻の実家からの賃借に加え、他の農家から15aを賃借している。農業機械等は農業を行っている義父からその都度借りている。

＜現在＞

- ・就農1年目のスナップエンドウの収穫量は1トン（中種子町の平均収穫量は2トン）に届かなかったが、去年は1トン強で、今年は2.5トン収穫することができた。
- ・月1回の追肥や殺菌殺虫、また、カルシウムを10日に1回散布したことが良い結果に繋がったと思う。



ニガウリのほ場

② これまで苦労した点

- ・収入が少なかったこと。そのため、スナップエンドウ、ブロッコリーの裏作として夏場にニガウリやオクラを栽培するようにした。
- ・スナップエンドウの収穫では、妻の手伝いだけでは人手が足りず、知り合いに声をかけて手伝ってもらった。
- ・夏場に収穫できる作物がないこと。推奨作物を町やJ Aが示してくれれば良いと思う。

③ 就農して良かった点

- ・収穫した時の喜び。自分の時間が作れることで家族ともふれ合えること。地域の行事に顔を出す機会が多いことから、現在はPTAの副会長をやっている。昨年までは集落の青壮年部会長をやっていた。

④ 今後の目標

- ・スナップエンドウは現在の単収を維持しつつ、面積を2a程度増やしたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・農業を始める前に勉強しておくことが大事で、近くにアドバイスを受ける人がいることも重要である。
- ・1年目は失敗がつきものであることを覚悟しておくこと。最初は作業も雑になりがちなので、周りの人に聞いたり、他の農家のほ場を見に行ったりすることも必要である。
- ・作業を行うのは一人だが、周りの人の支えや繋がりがあからこそ、この地で営農ができています。決して、一人ではないことを自覚すること。

＜基本情報＞

所在地：南種子町
年 齢：35歳（H30.10就農）

＜経営概要＞

品目：露地野菜
面積：スナップエンドウ 50a、オクラ 10a、
実エンドウ 5a、スイートコーン 5a、
ばれいしょ 10a



スナップエンドウ

＜就農のきっかけ＞

鹿児島市で会社勤めをしていたが、自分の頑張り次第で結果が出る職業に挑戦したいと思うようになり、様々な職業を思い描いた結果、その考えに近かったのが農業であった。家族と相談しながら、農業に挑戦するという覚悟を決め、出身地である南種子町で就農することを決意。実家は非農家であったため、農地中間管理機構を通して農地を賃借し、新規就農者助成金を活用して、平成30年10月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・スナップエンドウを選んだ理由は、研修時に栽培方法を学んだことと、限られた土地で高収益をあげられる（就農当初は土地の確保が難しかった）との判断からであり、その裏作でオクラの栽培を開始した。

＜現在＞

- ・スナップエンドウとオクラの面積を増やし、実エンドウ、スイートコーン、ばれいしょも栽培している。
- ・連作障害を防ぐため、ほ場はローテーションを行っている。野菜を作付けしない年には緑肥を栽培しすき込みを行ったり、町に土壌診断を依頼し堆肥を投入するなど、土づくりに力を入れている。
- ・I P M（総合的病害虫・雑草管理）を導入し、畑の周りにソルゴーやゴマ等を植えることで、防虫・防風・天敵対策を行っている。



オクラのほ場

② これまで苦労した点

- ・25馬力の中古トラクターや動力噴霧器、管理機や耕運機等を初期投資で購入したため、貯蓄は1年でなくなった。
- ・当初は条件の良い土地の確保が難しかったが、現在は風通しの良いほ場を確保でき改善できている。
- ・園芸作物は手作業が多く機械化が難しいこと。そのため、昨年は2名を通年雇用していたが、今年の冬場は4名を季節雇用してローテーションしながら作業を行った。
- ・オクラは、3メートル近い高さまで成長するため、収穫作業に苦労している。

③ 就農して良かった点

- ・自分の頑張り次第で結果が収益として返ってくる。通帳振込を確認することが楽しみ。
- ・消費者に食べて喜んでもらえること。
- ・自営なので農作業の段取りを自分で調整することができ、地域や学校の行事に参加しやすいこと。

④ 今後の目標

- ・規模を拡大したい。それには、雇用者の確保が課題である。
- ・収穫量や地力を高めるため、引き続き土壌診断を受けながら、土づくりを惜しみなくやっていきたい。また、I P Mには引き続き挑戦していく。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・就農を目指す方は失敗を恐れずに、いろんな作物に挑戦して、自分にはどの作物が合っているのかを見極めることが重要である。
- ・一人で悩まず、自分から周りの人に積極的に声かけを行い、コミュニケーションをとることも必要。自分の場合は先輩から失敗談を聞かせてもらったことが役に立っている。

＜基本情報＞

所在地：屋久島町

年齢：38歳（R3.4就農）

＜経営概要＞

品目：露地果樹

面積：たんかん 1.1ha



収穫期のたんかん

＜就農のきっかけ＞

関東でイベント等の運営会社に勤めていたが、仕事を辞めて親の移住先である屋久島に住むことにし、屋久島のたんかん農家で手伝いをするうちに、「自分でも作ってみたい」「おいしいたんかんを多くの人に食べてもらいたい」という気持ちを抱き、県立農業大学校に進学。農業委員会から果樹園の斡旋を受け、令和3年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・農地の40aを賃借し、その後70aを購入した。
(70aの農地は樹齢10年程度の樹が多数、他は30～40年)
- ・機械装備は草刈り機、動力噴霧器を新品で購入した。
- ・園芸組合が開催する講習会（3～4回）で、県の普及指導員から指導を受けた。

＜現在＞

- ・技術的に色々と試している状況で、基礎は県立農業大学校で学んだものの実践はまた違うと感じている。
- ・就農当初の収量は少なかったが、剪定を工夫するなど、栽培技術が上がっているので、今年は収量が増えるのではと期待している。



たんかんのほ場（取材当時6月）

② これまで苦労した点

- ・県立農業大学校では、樹齢20年程度の樹で実習してきたが、購入した園地には30～40年経った樹もあり、栽培管理の面でギャップを感じた。島は本土よりも温暖であり、生育のリズムを掴むのにも苦労した。
- ・樹高は高いもので3メートルあり、脚立作業や防除作業に苦労している。また害虫（ゴマダカミキリやミカンハモグリガなど）の多さにも苦労している。
- ・農業は天候に左右されるので、思い通りに作業ができないことが多い。特に防除作業ではスケジュール管理が難しく、前倒しできるところは前倒しするようにしている。

③ 就農して良かった点

- ・1年間大事に育てて収穫した時の喜びは格別である。
- ・周りからのアドバイスがあることや、わからないことがあれば普及指導員に相談できること。

④ 今後の目標

- ・管理を行い健全な樹体にすることで単収を上げていきたい。
- ・いずれは他の品目（ぼんかん、パッションフルーツなど）にもチャレンジしたい。
- ・将来を見据えて園地の集約を図り、合わせて設備や資材を充実させていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・県立農業大学校に行くことも選択肢のひとつと考える。基礎知識を得られ、交友関係も広がりそれが現在も続いている。
- ・野菜から始めることも選択肢のひとつで、果樹のみでの新規就農は収穫まで期間がかかることから、リスクが高いと感じる。
- ・ゆくゆくは就農するにしても、まずは就職して知見を広めてからでも遅くはないと思う。
- ・役場やいろんな人に相談することが重要で自分では気付かなかったアイデアが得られる。分からないことは悩むより、知っている人に聞くことが早くて間違いはない。

<基本情報>

所在地：大和村
年 齢：33歳（R3.9就農）

<経営概要>

品目：露地果樹
面積：たんかん 3ha



たんかん

<就農のきっかけ>

農家の生まれで子供の頃から手伝いをしており、島の高校から静岡の果樹試験場で2年間学び、1年の契約職員を経て、縁あって東京の仲卸商社に就職した。果実を売る側にいたが、作る側である農業への思いや、高齢になってきた親の状況も考え、農業を始めるために令和2年に帰郷し、新規就農者助成金を受け、令和3年9月に就農した。

① 就農から現在までの状況

<就農時>

- ・父と共同で8haを栽培、うち3haは父から賃借している。ほ場は国立公園の中にある。
- ・草刈り機、自走モア、乗用モアを購入し、トラクターやスピードスプレイヤーは村からの貸出しを利用している。
- ・父に師事し、JAの営農指導員や県の普及指導員による定期的な訪問の時に、栽培技術等について学んだ。
- ・自分が一番の若手であるが、同世代の仲間と情報共有や意見交換を行っている。

<現在>

- ・農薬は益虫まで殺してしまうため、農薬散布の回数を減らし、6月末以降は散布しないようにしている。この方法でダニの発生も減少している。



園地から奄美世界自然遺産を望む

② これまで苦労した点

- ・作業は肉体労働であり、特に雑草の管理が大変である。
- ・経営は苦しいが何とか生活している。会社員時代に貯金をもっとしておけばよかったと後悔している。
- ・天然記念物のアマミノクロウサギの保護の徹底から個体数が増加し、幼木を含め樹木の食害が増えて対応に苦慮しており、共存できる方法がないか模索中である。最近新聞に掲載されたことで、行政も対策を講じるようになってきている。

③ 就農して良かった点

- ・会社勤めと違いストレスが溜まらなくなった。自然が相手なので諦めがつくこと。
- ・収量が上がっていくと収益も上がり、励みになる。

④ 今後の目標

- ・この地域には70haのたんかんが栽培されているが、今後は高齢化による離農や耕作放棄地が出てくるため、その受け皿となって栽培面積を増加させたいと考えている。
- ・農地拡大による収量増を目指していく。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・こだわりを持ちすぎないことが重要である。
- ・大きな農家から技術の習得も含めて、アドバイスをもらうことで道も開けてくる。
- ・学校で学んだことと実際の経営は違うので、アルバイトでも良いから営農前に経験を積んでおくことも必要。その経験が効率化につながっていく。
- ・どうしても初期投資が必要になることから、営農を開始するには少なからず貯金しておくこと。